

科目名	法学の基礎			ナンバリング	SOC321	授業形態	講義
対象学年	1年	開講時期	後期	科目分類	選択	単位数	2単位
代表教員	菅野昌史	担当教員					

授業の概要	この講義では、市民社会を律している法律という存在を身近に感じられるようになるとともに、公務員を目指す受講生が法律学の学修を主体的に進めていくための方法を修得することを目的とする。具体的には、法律学を学ぶために必要不可欠な知識の解説、次に、テキストにおさめられている法律学の論文の解説を行う。						
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の法制度の歴史について説明できる。 2. 法学の全体像について説明できる。 3. 法律学の基礎的な用語について説明できる。 4. 自らの興味関心に従って、法律学の文献を読み進めることができる。 						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な予備知識など)	授業の進行に関わらず、テキストを入手次第、できるだけ早い段階で、全体を一度ざっと読んでおく。その上で、授業の該当箇所を熟読し、あらかじめ疑問をもって授業に臨む。授業中には、その疑問は解決されたのか、また、あらたな疑問はないかを意識ながら話を聞き、随時メモをとるようにする。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1. 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
	○	2. 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
		3. 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
		4. 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5. 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわしい関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の法制度の歴史について大きな間違いなく説明できる。 2. 法学の全体像について大きな間違いなく説明できる。 3. 法律学の基礎的な用語について大きな間違いなく説明できる。 4. 法律学の文献を大きな間違いなく読み進めることができる。 	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の法制度の歴史についてほぼ完璧に説明できる。 2. 法学の全体像についてほぼ完璧に説明できる。 3. 法律学の基礎的な用語についてほぼ完璧に説明できる。 4. 自らの興味関心に従って、法律学の文献を正確に読み進めることができる。

評価方法	成績評価観点						評価割合
	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	
定期試験(中間・期末試験)	○	○					70%
小テスト・授業内レポート							
宿題・授業外レポート		○	○	○			20%
授業態度・授業への参加			○	○	○		10%
出席							加点はしないが、減点となることがある。

課題、評価のフィードバック	<ol style="list-style-type: none"> 1. 毎回の授業で提出してもらったアクションペーパーについては、次の時間にいくつかを紹介しコメントする。 2. 中間確認のテストについては、解説を行うとともに、全体の成績に関して次回授業で講評を行う。 3. 授業に関する質問や相談には随時応じる。 4. 最終評価に関しては学生からの要請があれば、その根拠を示し、説明する。
---------------	--

	回次	テーマ	授業内容	備考
授業計画	第1回	ガイダンス	授業の進め方、勉強の方法について説明する。	
	第2回	法と法学の歴史	日本における法の継受について解説する。	
	第3回	法律と法体系	法学の全体像、法学学習の基礎について解説する。	
	第4回	裁判制度とその役割	裁判制度の概要について解説する。	
	第5回	判例の読み方	判例の読み方について、具体例に即して解説する。	
	第6回	中間確認①	第2-5回までの復習、問題演習を行う。	
	第7回	法学の展開①:憲法	日本の違憲審査制について解説する。	
	第8回	法学の展開②:民法	保証人制度の現状と課題について解説する。	
	第9回	法学の展開③:会社法	会社とその利害関係者について解説する。	
	第10回	法学の展開④:民事訴訟法	民事訴訟における主張共通の原則について解説する。	
	第11回	法学の展開⑤:刑法	犯罪と刑罰に関する基礎知識について解説する。	
	第12回	法学の展開⑥:刑事訴訟法	刑事訴訟の存在意義について解説する。	
	第13回	法学の展開⑦:社会保障法	社会法の趣旨と特徴、その一分野である社会保障法の概要について解説する。	
	第14回	法と法学	法とは何か、法学とは何かについて検討する。	
	第15回	中間確認②	第7-14回までの復習、問題演習を行う。	
	試験	試験を実施する。		
授業の進め方		基本的に講義と質疑応答とする。ただし、関連するビデオの視聴を随時行う。		
授業外学習の指示		<p>授業の該当箇所を熟読し、あらかじめ疑問をもって授業に臨む。意味のよく分からない法律用語については、用語辞典等、他の文献も参照しつつ調べておく。授業中に配布された資料を中心に授業の内容を復習する。不明な点は必ず教員に質問する。</p> <p>(授業外学習時間: 毎週 180 分)</p>		

教科書	南野森[編](2013)『ブリッジブック法学入門[第2版]』信山社 (ISBN 978-4-7972-2347-7)
参考書	南野森[編](2013)『法学の世界』日本評論社 (ISBN 978-4-535-40842-5)
参考URLなど	授業の中で適宜指示する。
その他	